



お客さま向け資料

ブラジルの政策金利引上げについて

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

2011年3月2日(現地)、ブラジル中央銀行はCOPOM(定例金融政策委員会)において、Selic(政策金利)を0.50%引き上げ、年率11.75%とすることを決定しました。

ブラジルでは、2010年のGDP成長率が7%を超えたと見られ、国内景気が好調を維持していることを背景にインフレ圧力が強まっており、ブラジル中央銀行はトンビニ総裁の下で年初から金融引き締めには舵を切っています。

今回の利上げは1月19日に続き今年2度目であり、年初からの引き上げ幅は合計1.00%となっています。

ブラジルでは、2011年1月の鉱工業生産が前月比+0.2%、前年同月比では+2.5%(季節調整後済)と市場予想を上回ったことや、2011年1月失業率が6.1%と、過去最低を記録した昨年12月の5.3%からは上昇したものの、過去の水準と比較すると低位に留まっていることなどから、景気は概ね好調を維持していると考えられます。

ただ、労働市場の引き締めによる賃金上昇、与信残高の急増、地政学リスクの高まりによるエネルギー価格の上昇や、食品価格の上昇などから足元ではインフレ圧力が高まっており、1月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前年同月比+5.99%と、中銀目標(+4.5% ±1.5%)の上限に一段と近づいています。

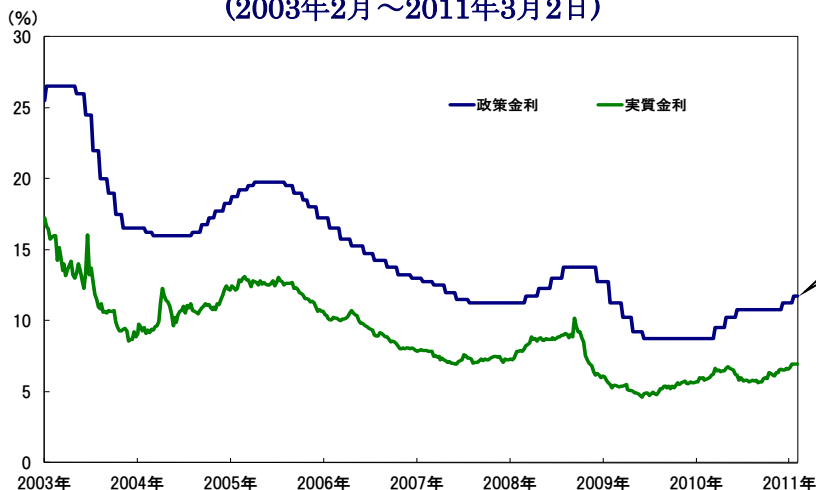
こうしたことから、ブラジル中央銀行はインフレを抑制し、持続可能な成長を確保することを目的として、今回の追加利上げを行ったと考えられますが、ブラジル政府は先に総額501億レアルの歳出削減計画を発表しており、歳出削減計画によって国内需要の過熱が抑えられ、最近のインフレ上昇に歯止めがかかることを期待していると考えられます。

市場では、利上げ予想が大勢を占めていたことから影響は軽微であると考えられ、為替市場では、対ドルは1米ドル=1.66レアル、対円が1レアル=49.37円(出所:ロイター)と小幅な値動きに留まりました。株式市場でもボブスピア指数終値は前日比1.57%高の67,281.51と、大きな影響は見られませんでした。

この利上げの発表は株式市場の引け後に行われたことから、市場への今後の影響を注視してまいります。利上げは想定範囲内であったことから、影響は軽微と考えられます。

また足元では、地政学リスクの高まりによる原油高が世界景気に悪影響を与えるとの懸念からリスク回避の動きも想定されること、ブラジル政府は引き続き、海外からの資金流入による急速なレアル高の進展に警戒感を示していることから、ブラジル国内外の状況を勘案しつつ、慎重に運用を行ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2003年2月～2011年3月2日)



2011年3月2日
11.25%→11.75%へ
0.50%の引き上げ

* 政策金利：Selicを使用。
* 実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出。

出所：ブラジル中央銀行、BNPパリバアセットマネジメント ブラジルのデータをもとに当社作成

本資料は、BNPパリバ アセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解を提供することを目的として、2011年3月2日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。